

平成29年度 学校自己評価システムシート (県立久喜高等学校 定時制)

e03

※学校関係者評価実施日とは、最終回の学校評価懇話会を開催し、学校自己評価を踏まえて評価を受けた日とする。

目指す学校像	基礎学力の充実を図り、将来に希望を持たせ、生徒全員の進級・卒業を実現できる学校
--------	---

達成度	A	ほぼ達成 (8割以上)
	B	概ね達成 (6割以上)
	C	変化の兆し (4割以上)
	D	不十分 (4割未満)

重点目標	<p>1 生徒の授業参画意識を高め、一人一人に応じた学びを支援し、基礎学力の充実を図る。</p> <p>2 健やかな心身の育成を図り、将来の生き方を考えさせ、希望進路の実現を図る。</p> <p>3 学校情報を積極的に発信し、地域の期待と信頼に応え、地域とともに歩む学校を目指す。</p>
------	--

出席者	学校関係者	3名
	生徒	2名
	事務局(教職員)	7名

※ 重点目標は3つ以上の設定も可。重点目標に対応した評価項目(年度達成目標を意味する。)は複数設定可。 ※ 番号欄は重点目標の番号と対応させる。評価項目に対応した「具体的方策、方策の評価指標」を設定。

学 校 自 己 評 価					学 校 関 係 者 評 価		
年 度 目 標				年 度 評 価 (2 月 1 日 現 在)			
番号	現状と課題	評価項目	具体的方策	方策の評価指標	評価項目の達成状況	達成度	次年度への課題と改善策
1	不登校傾向の生徒、学習習慣が身につけていない生徒、学習の振り返りが必要な生徒、日本語の学力が不足している生徒等が少なくない。 学習指導の一層の充実を図るとともに、個々の生徒が抱える問題の解決について効果的な支援を続けることが必要である。	○コミュニケーション能力、基礎学力、学習習慣等の課題に対する生徒支援体制の一層の充実	①登校・授業への出席を習慣化させるため全教職員で連絡を密にし、日常的に指導する。保護者への連絡、情報交換を密に行う。 ②個に応じた授業を実施するため、生徒の実態に即し基礎学力が不足している生徒には始業前補習を組織的に行う。	①出席率の上昇(昨年度比)が実現できたか。 ②年度当初から学習サポーターを配置し、組織的な補習体制が実現できたか。また成績優良者数の増加及び成績不振者数の減少(昨年度比)が実現できたか。	達成状況はほぼ満たした。個々の生徒の学習状況に応じた授業や組織的な体制での補習等、継続が課題。 ①出席率91.2%(昨年度比0.3%減)。 ②5月から学習サポーター(週2回)、多文化共生推進員(週3回)を配置。成績優良者23.3%(昨年度比9.2%増)。欠点保有者18.6%(昨年度比4.7%減)。	A	・個に応じた授業を実施するため、基礎学力不足の生徒には始業前補習を組織的に行う。 ・早期から近隣の大学や地域に学習サポーターの募集を行い、次年度も年度当初から配置となるよう取り組む。
		○家庭との連携を図り、個々の生徒の課題を把握し、個に応じた課題解決のための取組の推進	①ソーシャルスキルトレーニングを指導計画に位置づけ特に1学期に6回実施する。 ②教育局の事業「高校生自立支援事業」を最大限活用する。スクールカウンセラー、スクールソーシャルワーカーの専門性を活かし、全職員が組織的に生徒の支援を行う。	①生徒の8割以上がソーシャルスキルの向上を感じられたか。 ②個々の生徒の課題解決を組織的に支援できたか。また中途退学者数が昨年度より減少したか。	達成状況はほぼ満たした。スクールカウンセラー、スクールソーシャルワーカー、サポートステーションとの連携の深化が課題。 ①ソーシャルスキルトレーニング後の生徒アンケートでは14目中12項目(86%)でスキルが向上したと回答(昨年度比9%増)。 ②教育局の事業を活用した生徒の支援は、サポートステーション担当者とともに対応を実施。中途退学者は昨年度比1名減。	A	・次年度も教職員の組織的な指導体制を強めるため、スクールカウンセラー、スクールソーシャルワーカーなどの専門的な意見を取り入れて、更に中途退学者数の減少を目指す。 ・高校生自立支援事業として、サポートステーションと連携し手厚い生徒支援を継続する。
2	生徒指導部を基盤とした学校づくりを推進している。今後も教員間で共通理解に基づいた組織的な生徒指導が必要である。 昨年度は交通事故ゼロを実現している。今後も交通事故ゼロに向けた取組が必要である。	○共通理解に基づく組織的・継続的な生徒指導の推進と生徒支援体制の充実	①問題行動やいじめ等の早期発見と未然防止を強化するため、年3回の三者面談を実施する。 ②交通安全に関する意識を向上させるため、年3回の交通安全指導を継続する。	①問題行動、いじめ等の早期発見と未然防止が実現できたか。 ②交通事故発生件数ゼロが実現できたか。	達成状況は、「ほぼ達成」に近い状況ではあるが、更に教員間の共通理解に基づいた指導が必要。 ①全教職員で日常的に生徒に声掛けを実施。いじめ件数ゼロ。 ②交通事故発生件数ゼロ件を継続。	B	引き続き、組織的・継続的な生徒指導を推進し生徒支援体制の充実を図る。いじめ件数ゼロ、生徒指導件数ゼロ、交通事故発生件数ゼロを目指す。
		○生徒の進路希望を踏まえ、第1希望を実現する組織的・計画的な進路指導の取組の推進	①段階的なキャリア教育を実施するため、行事・LHRの時間に年5回以上計画する。 ②生徒の進路希望に応じた手厚い進路指導を希望進路が実現するまで継続的に行う。 ③進路意識を高揚させるため「高校生自立支援事業」等を活用し、進路に関する講演会、就労体験を行う。	①行事・LHRを活用した進路指導が計画的に実施できたか。 ②卒業時の進路未決定者ゼロが実現できたか。 ③組織的、計画的に進路講演会、就労体験を実施し生徒の満足度(昨年度比)が増加したか。また就労体験受入れ先が拡大できたか。	達成状況はほぼ満たされた。他学年の進路意識向上に向けた指導は、引き続き課題である。 ①年間計画に基づき進路行事を実施。就職希望生徒を合同就職面接会に引率し生徒の意識を向上。第1希望の進路実現92.3%。 ②4年生14名中2名未決定(公務員、企業出願中)。 ③職業安定所職員を招いて面接指導を実施。進路説明会、就労体験等のアンケートでは満足度90%以上を維持(昨年比同)。就労体験受入れ先の拡大は難しかった。	A	・進路未決定者ゼロを目指し、計画的に進路指導を行う。また生徒の第1希望の進路決定率を更に向上させる。 ・組織的な進路指導体制になるよう更に改善する。また就労体験を継続し生徒の進路意識の定着を図る。特に就労体験受入れ先について生徒のニーズに合う企業等の拡大を図る。
3	公開授業週間、学校説明会、体験入学、学校ホームページ等を活用して学校情報を発信しているが、さらに積極的な発信と発信方法の工夫改善等を行い、学校理解を深化・定着させることが必要である。	○工夫・改善した学校情報の積極的な公開	①学校説明会、体験入学等の実施内容を改善する。 ②学校新聞を毎月発行し、多面的な学校情報の提供を地域に対して積極的に行う。また、地元自治会へ回覧する。 ③公開授業週間、学校説明会等の実施について、情報発信を強化する。	①実施内容が改善できたか。参加した生徒、保護者アンケートから8割以上の満足度が得られたか。 ②学校情報発信回数の増加(昨年度比)が実現できたか。 ③学校説明会等の情報をホームページやその他のメディアを活用して、発信数の増加が(昨年度比)実現できたか。	達成状況はほぼ満たされている。継続が課題。 ①学校説明会の内容を変更し中学生、保護者からの個別質問時間を必ず設定。多様な生徒のニーズに改善した。夕方の説明会を10回実施。 ②学校新聞を毎月1回発行(今年度は夏季休業中も発行)。近隣の26中学校3年生全クラスに配布。学校周辺の11区(2571世帯)に回覧。給食献立も毎月1回発行し学校ホームページに掲載。 ③学校ホームページをリニューアルした。ホームページでは学校の教育活動を毎日掲載。	A	・学校新聞や給食献立等の継続的な作成、配布、学校ホームページへの掲載を継続する。 ・学校ホームページを最大限に活用し、学校情報発信回数を増加させ、保護者、地域に学校への理解を深化・定着させる。

学校関係者評価	実施 平成30年2月6日
学校関係者からの意見・要望・評価等	<p>・授業見学をとおり、生徒の「自分のために学ぶ姿勢」が伺えた。</p> <p>・各授業とも、「学習の本質」が伺える展開であった。</p> <p>・今後も個々の生徒に合わせた授業展開を行ってほしい。</p> <p>・ソーシャルスキルトレーニングは、理論立てて行っており、大変素晴らしい。今後も引き続き取り組んでほしい。</p> <p>・生徒に対し、手厚い指導が展開されている。今後も継続的な指導の展開を期待する。</p> <p>・「自立支援事業」におけるhyper-QUテストにより、個々の生徒の学級満足度、学校生活意欲度、ソーシャルスキル度等が把握され、指導の一助を果たしている。継続を期待する。</p> <p>・いじめ件数ゼロ、交通事故件数ゼロは素晴らしい。継続的な指導を期待する。</p> <p>・生徒と教職員との関係が良好であるから、学校が落ち着いていることがわかった。</p> <p>・教職員の指導が、生徒とかみ合っていることが把握できた。そのことが指導の効果によく表れている。</p> <p>・就労体験では、生徒が真面目に取り組んでいた。就労前の体験は、生徒にとって有効である。</p> <p>・就労体験先の拡大は、次年度期待する。</p> <p>・今年度の取組で、学校説明会参加者数が大幅に増加したことは、学校にとっても中学生、保護者にとっても大変良いことである。</p> <p>・学校新聞では、更に生徒の意見等を掲載すると良いのではないかと期待できる。次年度に期待したい。</p>